

「千葉市シェアサイクル実証実験」の中間報告をします
～半年で利用回数が約3.6倍に増加！サービス提供エリアを順次、拡大！～

千葉市とOpenStreet株式会社では、都市部における新たな交通サービスとしてのシェアサイクルの有効性及び課題などを検証するため、2018年3月から、『千葉市シェアサイクル実証実験』を実施してまいりましたが、このたび、利用状況の中間報告（2018年9月末時点）及び利用者を対象にしたアンケート結果をとりまとめましたので、お知らせします。

また、順次、サービス提供エリアを千葉都心と幕張新都心を結ぶエリアなどに拡大しますので、併せてお知らせします。

1 実証実験の概要

(1) 実施期間

2018年3月26日～2019年9月末

(2) 実施場所

JR千葉駅及びJR海浜幕張駅を中心とする概ね半径2.0kmの範囲

※上記エリア外についても民有地にステーションを設置し、サービスを提供

(3) 実施体制

千葉市が実施主体、OpenStreet株式会社が運営主体となり共同で実施

(4) 事前登録の後、スマートフォンで予約し、予約した自転車に番号を入力して利用

※電動アシスト付き自転車。利用料金は15分ごと60円（1日最大1,000円）。

2 利用状況等について（別紙1参照）

(1) サービス規模について

千葉市全域のステーション数は、開始当初の23か所から121か所に、自転車台数は、開始当初の110台から326台になるなど、サービスは順調に拡大。

| | ステーション数(箇所) | | ラック数(台) | | 自転車数(台) | |
|-------|-------------|---------|-----------|---------|-----------|---------|
| | 開始時(3/26) | 2018.9末 | 開始時(3/26) | 2018.9末 | 開始時(3/26) | 2018.9末 |
| 千葉市全域 | 23 | 121 | 245 | 872 | 110 | 326 |
| 千葉都心 | 11 | 53 | 97 | 289 | 60 | 127 |
| 幕張新都心 | 12 | 39 | 148 | 408 | 50 | 133 |
| その他※1 | 0 | 29 | 0 | 175 | 0 | 66 |

※1 その他は、千葉都心エリア及び幕張新都心エリア以外の民間ステーション設置エリアを表す

(2) 利用状況について

- 千葉市全域の自転車利用回数は、2018年4月の2,856回から、10,295回となり、約3.6倍に増加。
- 2018年9月のエリア別の自転車利用回数は、千葉都心エリアの2,059回に対し、幕張新都心エリアは7,821回となり、幕張新都心エリアの利用が好調。
- 千葉市全体の1回あたりの利用時間は、15分以下の利用が70%を超え、比較的短距離の活用傾向がうかがえる。

| | 自転車利用回数(回/月) | | 自転車回転数(回/台・日)※2 | | 利用ユーザー数(人/月) | |
|-------|--------------|--------|-----------------|--------|--------------|--------|
| | 2018.4 | 2018.9 | 2018.4 | 2018.9 | 2018.4 | 2018.9 |
| 千葉市全域 | 2,856 | 10,295 | 0.72 | 1.05 | 737 | 2,446 |
| 千葉都心 | 595 | 2,059 | 0.46 | 0.54 | 233 | 643 |
| 幕張新都心 | 2,258 | 7,821 | 1.08 | 1.96 | 539 | 1,790 |
| その他 | 3 | 415 | 0.01 | 0.21 | 3 | 210 |

※2 自転車回転数は、1台の自転車が1日あたりに利用された回数を表す

(3) サービスの改善について

- ・バッテリーの不足に対応するため、毎朝の定期通信を元に、バッテリー残量が無い自転車の使用を不可とする運用を開始（現在、機能改善中）。
- ・ステーションの不足に対応するため、自転車の使用中に返却したいステーションを予約できる機能を追加。

3 利用者アンケートの結果について（別紙2参照）

(1) アンケート概要

| | |
|-----------|-------------------------|
| ア アンケート対象 | 千葉市内におけるシェアサイクル実証実験の利用者 |
| イ アンケート方法 | WEBアンケートによる |
| ウ 調査時期 | 2018年8月27日～9月10日 |
| エ 配信数 | 3,485人 |
| オ 回答数 | 1,000人（回収率28.7%） |

(2) 主な結果

- ・回答者は、性別では男性（64.4%）、年齢別では30代・40代（30代：24.6%、40代：38.6%）の比率が高い。
- ・利用目的は、買い物などの日常利用（48.1%）、通勤・通学（38.7%）などが多い。
- ・利用回数は、月に2～3回（37.5%）、月1回以下（33.1%）で約7割を占める。
- ・概ね800m～3,000mの距離で、シェアサイクルの利用意向が高い。
- ・自転車の性能、利用方法及び料金には概ね満足しているものの、ステーション数が少ないと感じている利用者が多く（80.4%）、駅・バス停の周辺や商業施設へのステーション設置の要望が多い。
- ・回答者の9割以上がシェアサイクルの本格導入に前向きである。
- ・本格実施にあたる課題として、ステーションの増設（76.5%）、サービス提供エリアの拡大（56.9%）、自転車台数の増加（50.9%）のほか、バッテリーの不足への対応を含めたメンテナンスの充実をあげる利用者が多い。

4 今後の取組み

(1) ステーション及び自転車の充実

ステーション増設に対するニーズが高いことから、駅周辺や商業施設など、利用者ニーズの高い場所にステーションを設置するとともに、自転車台数を増やし、2019年3月までに自転車台数1,000台規模のサービス提供を目指す。

(2) サービス提供エリアの拡大

千葉都心と幕張新都心を結ぶエリア、蘇我臨海部、JR総武線と京葉線の駅間など、利用者ニーズの高いエリアにサービスを順次、拡大し、市民の利便性を高める。

(3) 利用促進に向けたプロモーション

自転車の利用促進や安全利用を目的とする自転車関連イベントと連携し、幅広い層を対象とした利用促進の取組みを実施する。

(4) 実証実験の検証

実証実験の期間中に、利用状況、利用者ニーズ及び事業の採算性等の検証を行い、2019年10月以降の本格実施の可否を決定する。

参考

Open Street 株式会社について



2016年11月にソフトバンクの社内ベンチャーとして設立。同月よりIoTを活用したシェアサイクルプラットフォーム「HELLO CYCLING」^{ハローサイクリング}の提供を開始。電車やバスなどを下車した後の「ラストワンマイル」の移動を支える補助交通として、各地に根差したシェアサイクルを発展させることを目的としている。



自治体との連携として、これまでに栃木県小山市、愛知県岡崎市、東京都台東区などでの導入実績があるほか、全国各地でシェアサイクルを展開している。今後、全国の政令指定都市を中心に「HELLO CYCLING」を活用したシェアサイクルを展開することを目指している。